

# 大川小「等身大」知って

## 「自分が感じたこと形に、次進む」



映画撮影の様子を語る(左から)佐藤さん、小枝さん、由佳里さん

### 震災遺族 佐藤さん監督の映画上映会

東日本大震災で、当時石巻市大川小6年だった妹が犠牲になった同市出身の会社員佐藤そのみさん(25)が東京都で監督した映画の上映会「ある春のための上映会 in 仙台」が12日、仙

#### —— 仙台 ——

台市若林区のせんだい3・11メモリアル交流館であった。仙台での開催は初めてで、2回の上映に計約60人が参加。震災遺族の手による作品に真剣な表情で見入った。

劇映画「春をかきねて」(45分)とドキュメンタリー「あなたの瞳に話せたら」(29分)の2本立て。「春」

は震災で妹を亡くした14歳の少女を中心に、少女の心の傷と友情を描いた物語。「あなた」は佐藤さん自身と年代の子たちが、亡くなった家族や友人宛ての手紙を読む姿を記録した。子どもたちが大川小校舎の保存を訴えたことを巡り、「校舎を残さなかったのは同級生のみなどと会いたかったから」と語るなど、等身大の心情が映し出された。

2作とも佐藤さんが大学在学中の2019年に制作。東京で公開後、石巻で今年3月に上映された。1回目の上映後のトーク

には、佐藤さんと劇映画で主人公を演じた石巻好文館高3年齋藤小枝さん(18)、

小枝さんの母で映画でも母親役を演じた由佳里さん(52)が登場。佐藤さんは「震災後に自分が感じたことを形にしないと、次に進めない」と思った。作るべくして作った」と制作時の思いを語った。

小枝さんは「自分は被災経験がないが、映画を通じて気持ちを共有できた。知ること大切で、震災を心にとどめて生きたい」と述べた。由佳里さんも「多くの人に作品を知ってほしい」と話した。

佐藤さんは取材に「震災を伝承する施設で上映できてよかった。観客の反応が温かく、見てくれてありがたかった」と答えた。

